

達成目標

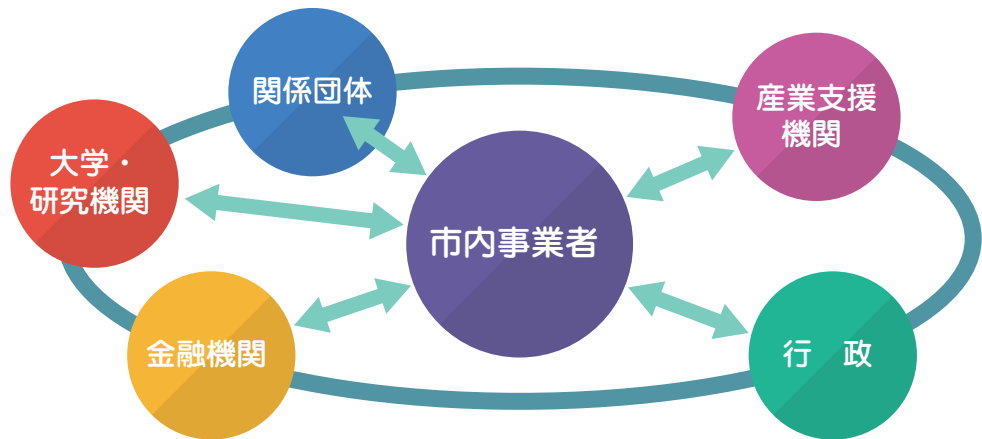
明日の京都市陽産業かがやきビジョンにおける達成目標

	①目標値 (R8)	②現状値	① - ②
従業者数 (人)	25,000	22,117 (R 3速報)	2,883
製造品出荷額 (億円)	950	944 (R元)	6
商品販売額 (億円)	1,030	813 (H 2 8)	217

明日の京都市陽産業かがやきビジョンにおける成果指標

	現状値	目標	関係する計画の方向性
1事業所あたり付加価値額 (万円)	3,565 (H28)	↑	A、B、C
市内事業所数	2,235 (R 3)	↑	A、B、C
デジタル化の推進度	30% (R 3)	↑	A、C
アクティブ事業所の割合	26% (R 3)	↑	A、C
新規立地事業所数 (R5～R9)	0	↑	B

推進体制



目指す姿の実現は、市内事業者のアクティブな活動によります。大きな環境の変化が見込まれる中でも、現状を憂いて留まるのではなく、まずは自らの置かれた状況を理解し、機会や脅威に立ち向かうため、必要な学びなおしや、同業・他業種を問わずに様々な関わりを通じて、新たな取組や考えを知ることが重要です。その一歩を踏み出すことがアクティブな取り組みであり、自ら状況を理解し、何か行動に移しているようなアクティブな取組を行っている事業所を『アクティブ事業所』とします。事業者のアクティブな取組に対しては、関係団体、産業支援機関、金融機関、大学・研究機関、行政機関等がそれぞれの立場で必要となる具体的な支援手法を相互に連携を図りながら、一丸となってそれぞれの役割を果たしていくこととします。



明日の京都 城陽

Next Industrial Vision for Bright Development

産業かがやきビジョン

～アクティブ産業あふれる3つのシンカ～

Summary Version

急激な社会システムの変化の中、城陽市においても、新名神高速道路の開通等により、大きく環境が変化しています。このような中、経済の活性化を図り、新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造するためには、市内産業を充実発展させ、一層産業誘導を進めるとともに、市内事業所の市外への流出を防止することが重要となっています。

そこで、このたび、市が持つ大きなポテンシャルを生かし、活発な事業展開を行う、誰もが誇れる産業のあふれるまちを創出するため、新しい産業振興の指針となる「明日の京都市陽産業かがやきビジョン」を策定いたしました。

城陽市

明日の京都市陽産業かがやきビジョン～アクティブ産業あふれる3つのシンカ～〈Summary Version〉

計画策定：令和5年7月

編集：城陽市まちづくり活性部商工観光課

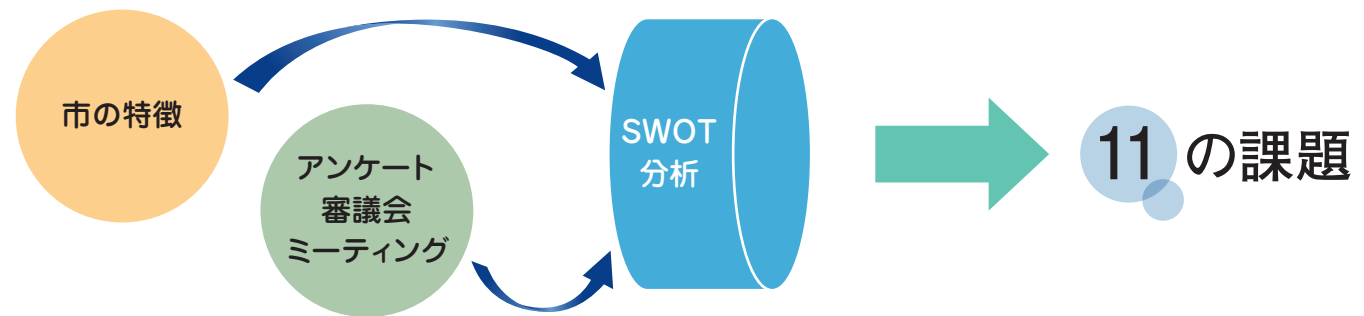
〒610-0195 城陽市寺田東ノ口16番地、17番地 TEL：0774-56-4018 FAX：0774-56-3999

計画期間

本ビジョンにおいては、持続可能な明日の城陽産業を展望しつつ、2023年度（令和5年度）から2027年度（令和9年度）までの5ヵ年を計画期間として産業振興を図っていきます。

課題整理

- 交通利便性が高いものの、小規模な事業所が多く付加価値額が低いといった本市の特徴
 - 市内全事業者を対象に実施した、「市内事業所経営状況及び事業展開に関するアンケート」
 - 城陽市商工業活性化推進審議会や有識者ミーティングにおける意見
- 等を踏まえて、SWOT分析を利用し、市が産業振興として取り組むべき11の課題を整理しました。



SWOT分析… 外部要因や内部要因を強み（Strengths）、弱み（Weaknesses）、機会（Opportunities）、脅威（Threats）の4カテゴリーで要因分析したもの。

		内 部 環 境	
		城 陽 産 業 の 強 み	城 陽 産 業 の 弱 み
外 部 環 境	城陽産業の機会	積極的攻勢を掛けるべきこと（強み×機会） ○活発な事業展開の促進 ○新規創業・新規事業所立地推進 ○東部丘陵地の有効活用	段階的施策に繋ぐべきこと（弱み×機会） ○付加価値額の向上 ○デジタル化への対応 ○知名度・ブランド力向上
	城陽産業の脅威	差別化戦略に活かすべきこと（強み×脅威） ○市内事業所の従業員の確保	防護・補強すべきこと（弱み×脅威） ○雇用の場の維持・確保 ○市内事業所の事業継続 ○事業用地の確保 ○活発な事業展開に向けた学習の推進

目指す姿

本市の産業振興を図る上での11の課題を解決するための方策として3つの「シンカ」に取り組む。

- A 今ある強みを積極的に活用して成長する『進化』
- B 新たな強みを創出する『新化』
- C 今ある強みを磨き上げる『深化』

コンセプト 『アクティブ産業あふれる3つのシンカ』

本ビジョンの目指す姿である「市が持つ大きなポテンシャルを生かし、シンカ（進化、新化、深化）していくアクティブ産業のあふれるまち」を踏まえ、アクティブ産業のあふれるまちを実現するため、市内事業者を中心に、関係団体、産業支援機関、金融機関、大学・研究機関、行政機関が一丸となって3つのシンカに取り組んでいくというメッセージを込めています。



具体的な取り組み

A 発展『進化』

高い付加価値を生み出すことのできるアクティブ事業所の活発な事業展開を阻む用地不足や東部丘陵地での企業立地により懸念される市内事業所の労働力不足といった要因を無くしていくとともに、アクティブ事業所の活発な事業展開を促進し、発展による『進化』を進めていきます。

- 活発な事業展開に向けた用地確保の一層の推進
- アクティブ事業所の認証・認定制度の新設・活用
- 人材確保・人材マッチングの推進の積極展開
- 各種関係団体との協調による国内・海外販路開拓

B 創出『新化』

新名神高速道路の開通とそれを契機としたプレミアム・アウトレットの開業等の様々な機会を活用し、創業や企業立地の促進、新たな土地利用の推進、東部丘陵地等を有効活用し、市内事業者との連携を図りながら、創出による『新化』を進めていきます。

- 創業・スタートアップ制度の充実・周知
- 企業立地の促進
- にぎわいづくりや新たな土地利用の促進
- 東部丘陵地の積極的活用 等

C 学習『深化』

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により急速に広がったデジタル化・DXやSDGs、高齢化、ポストコロナ、ESG投資等の様々な経営環境の変化に対して、事業者が持つ今の知識やスキルでは通用しなくなる恐れがあることから、リカレントやリスキリング等による学びなおしと活発な事業展開への意識醸成を促進し、経営環境の変化への対応力向上に向けた学習による『深化』を進めていきます。

- 多様なネットワークを通じ、経営を含めた様々な知識取得の促進
- リカレントやリスキリング等の学びなおしの促進や機会の醸成
- 研修等の積極実施・参加によるデジタル化対応・DXの促進
- 業種・業界に囚われず、産業支援サイト等の積極活用による情報共有の促進 等